Vol.76　1 つのコード上で演奏アイディアがどれだけ出せるか　～その 4～

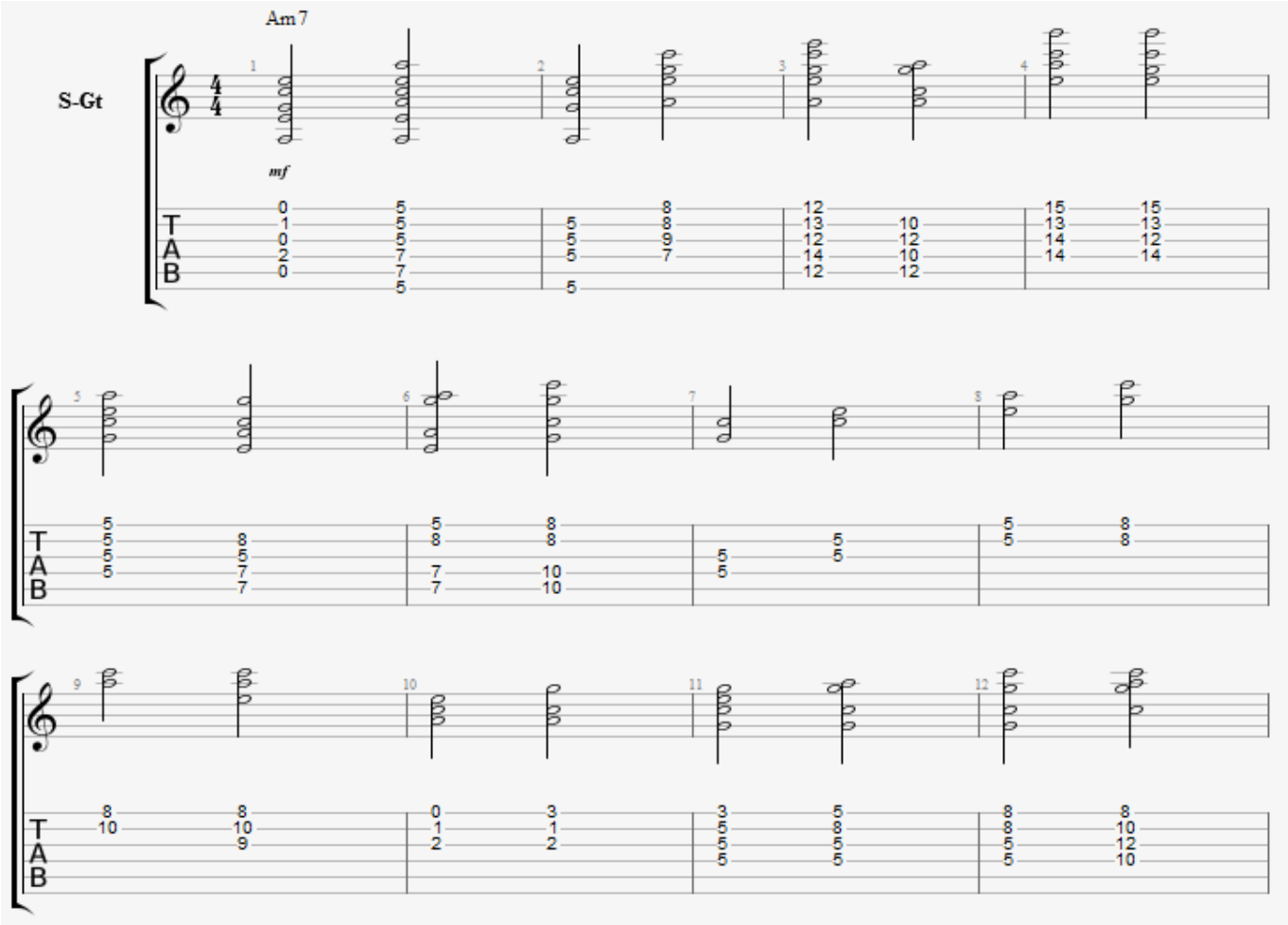
『10 分トレ』vol.76、始めていきましょう。

今回は、前回少しお話しした、4 和音のヴォイシングを見ていきましょうか。

題材は Am7 に設定し、例えばこのコードが提示されたとき、どんなヴォイシング(やフレーズ)が自分の中から出てくるのか？、そこをチェックします。

それでは、譜例は以下になります。

譜例、Am7 コード、各種ヴォイシング



ざっと思いつくもので、こんな感じでしょうか。

細かい話をすれば、ダブル・ストップや Am7 の各種展開形を含め、実用的なものはまだまだありますが、コードの構造的に前回の C コードと被るものも多くなってくるので、この辺りまでにしておきました。

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved

Am7 はコードの構成音的には C6 と同じなので、ある程度どちらから見ても使えるヴォイシングがありますね。

やはり重要なのは、これらの形を覚えておくだけでは無く、今鳴らしている(使っている)音の内容を把握している事です。

そういった関連性を知らないまま、単なる「いちフレーズ」としてしか認識していないと、特定の楽曲内でしかそのフレーズを活かせなくなりがちです。

ある楽曲で使われていたフレーズを他で使おうとした時、インターバルなどの知識が無いと、それをそこで使う根拠の様なものが導き出せません。

「とにかく理屈は後回し、聴いた感じで判断する」と言う方法もありと言えばありですが、それだとどうしても出せるアイディアの限界が狭まってしまいますね。

結局、総合的に学んでしまうのが一番効率がいいので、最初だけ少し慣れる事に労力を注いでおけば、後々どんどん楽になっていきます。

日頃から、工夫しながら練習に取り組んでいきましょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼

あ

Copyright (C) 2016 shunichi onuma All Rights Reserved